

2026年3月期 第2四半期（中間期）決算説明資料

2025年11月6日

株式会社 **ダイセル**

1. サマリー

(1) サマリー

2. 2026年3月期 第2四半期決算

- (1) 業績
- (2) セグメント別 売上高・営業利益
- (3) セグメント別 事業概況
- (4) 連結貸借対照表
- (5) 連結キャッシュ・フロー計算書
- (6) 足元的最優先課題の対応

3. 2026年3月期 業績予想

- (1) 業績予想/EBITDA増減分析
- (2) セグメント別 売上高・営業利益
- (3) セグメント別 事業計画

4. 株主還元

(1) 株主還元

5. Appendix

(1) Appendix

2026年3月期第2四半期実績（対前年同期）

売上高	2,771億円	(△4.3%)
営業利益	201億円	(△36.3%)
EBITDA	405億円	(△21.2%)
親会社株主に帰属する 中間純利益	188億円	(△41.3%)
ROIC	4.9%	(△1.8pp)

為替レート USD/JPY : 146円（前年同期 USD/JPY : 153円）

売上高、営業利益ともに為替の影響が大きく、減収減益

- 売上高については、マテリアル事業のアセテート・トウの販売が顧客の在庫調整の影響により減少したことや、エンジニアリングプラスチック事業で2024年7月に樹脂コンパウンド事業を持分法適用会社へ移管したことなどにより減収。
- 営業利益は、減収に加え、繰越在庫の影響や定修費用の増加などにより減益。

2026年3月期通期業績予想修正（対当初予想）

売上高	5,830億円	(△2.8%)
営業利益	465億円	(△13.9%)
EBITDA	895億円	(△7.7%)
親会社株主に帰属 する当期純利益	500億円	(△7.4%)
ROIC	4.7%	(△0.7pp)

為替レート（想定） USD/JPY : 146円（当初予想USD/JPY : 140円）

売上高、営業利益ともに減収減益

- 売上高は、顧客の在庫調整によるアセテート・トウの販売減少や、エンジニアリングプラスチック事業での中国におけるPOMの販売減少などにより減収を見込む。
- 営業利益は、減収に加え、マテリアル事業における一酸化炭素（CO）プラントの一過性トラブルの影響などにより減益を見込む。

株主還元

年間配当 60円/株（前回予想から変更なし）
約150億円、1,100万株（上限）の自己株式取得を決定

- DOE 4 %以上かつ総還元性向40%以上を目標に安定的で継続的な株主還元を継続

対前年同期：

- 売上高、営業利益ともに為替の影響を大きく受けた。売上高は、中国を中心に自動車エアバッグ用インフレーターの販売は増加したものの、マテリアル事業のアセテート・トウの販売が顧客の在庫調整の影響により減少したことや、エンジニアリングプラスチック事業で2024年7月に樹脂コンパウンド事業を持分法適用会社へ移管したことなどにより減収。
- 営業利益は、マテリアル事業でのアセテート・トウの販売数量の減少や繰越在庫の影響、定修費用の増加などにより減益。
- 前年同期にダイセルミライズの樹脂コンパウンド事業移管に伴う関係会社株式売却益があったため、最終利益は減益。

対予想：

- マテリアル事業のアセテート・トウの販売について、大手たばこメーカー向けは計画通りなものの、ローカルメーカーの在庫調整が影響し、計画を下回った。エンジニアリングプラスチック事業においては、LCPの販売が好調であるものの、中国における市場環境の変化（需給バランスや市況価格）によりPOMの販売数量が減少し、計画を下回った。

単位：億円	2025/3 2Q実績	2026/3 2Q予想※	2026/3 2Q実績	対前年同期		対予想	
				増減	増減率	増減	増減率
売上高	2,897	2,900	2,771	△126	△4.3%	△129	△4.4%
営業利益	316	225	201	△115	△36.3%	△24	△10.6%
経常利益	307	235	204	△104	△33.7%	△31	△13.3%
親会社株主に帰属する 中間純利益	321	250	188	△133	△41.3%	△62	△24.8%
為替レート USD/JPY	153	140	146				
EBITDA	513	430	405				

※2025年5月13日に発表した数値です。

セグメント別 売上高・営業利益

単位：億円	売上高						
	2025/3 2Q実績	2026/3 2Q予想※	2026/3 2Q実績	対前年同期		対予想	
				増減	増減率	増減	増減率
メディカル・ヘルスケア	72	75	76	+4	+6.2%	+1	+1.8%
スマート	196	200	182	△14	△7.3%	△18	△9.1%
セイフティ	471	500	497	+27	+5.6%	△3	△0.6%
マテリアル	885	830	772	△113	△12.8%	△58	△7.0%
エンジニアリングプラスチック	1,245	1,270	1,219	△26	△2.1%	△51	△4.0%
その他事業	28	25	25	△3	△11.3%	+0	+0.3%
合 計	2,897	2,900	2,771	△126	△4.3%	△129	△4.4%

単位：億円	営業利益						
	2025/3 2Q実績	2026/3 2Q予想※	2026/3 2Q実績	対前年同期		対予想	
				増減	増減率	増減	増減率
メディカル・ヘルスケア	2	△2	2	+0	+10.1%	+4	-
スマート	2	7	4	+2	+87.9%	△3	△42.3%
セイフティ	13	29	27	+14	+102.8%	△2	△8.2%
マテリアル	143	78	50	△94	△65.3%	△28	△36.2%
エンジニアリングプラスチック	152	110	115	△37	△24.5%	+5	+4.3%
その他事業	3	3	4	+1	+16.3%	+1	+33.3%
合 計	316	225	201	△115	+36.3%	△24	△10.6%

※2025年5月13日に発表した数値です。

セグメント別 売上高・営業利益（対 前年同期 増減・要因分析）

単位：億円	売上高						
	2025/3 2Q実績	2026/3 2Q実績	増減	増減率	分析		
					数量差	単価差	単価差の内 為替影響
メディカル・ヘルスケア	72	76	+4	+6.2%	+5	△0	△3
スマート	196	182	△14	△7.3%	△10	△4	△4
セイフティ	471	497	+27	+5.6%	+46	△20	△17
マテリアル	885	772	△113	△12.8%	△57	△56	△27
エンジニアリングプラスチック	1,245	1,219	△26	△2.1%	△33	+7	△35
その他事業	28	25	△3	△11.3%	△3	-	-
合 計	2,897	2,771	△126	△4.3%	△53	△72	△85

単位：億円	営業利益							
	2025/3 2Q実績	2026/3 2Q実績	増減	増減率	分析			
					数量影響	価格影響	その他	営業利益の内 為替影響
メディカル・ヘルスケア	2	2	+0	+10.1%	+5	△0	△4	△1
スマート	2	4	+2	+87.9%	+0	+5	△4	△3
セイフティ	13	27	+14	+102.8%	+18	△15	+10	△2
マテリアル	143	50	△94	△65.3%	+22	△43	△73	△19
エンジニアリングプラスチック	152	115	△37	△24.5%	△15	+26	△49	△6
その他事業	3	4	+1	+16.3%	+1	-	-	-
合 計	316	201	△115	△36.3%	+31	△26	△120	△31

セグメント別 事業概況（対前年同期）

■ メディカル・ヘルスケア

単位：億円	2025/3 2Q実績	2026/3 2Q実績	対前年同期	
			増減	増減率
売上高	72	76	+4	+6.2%
営業利益	2	2	+0	+10.1%

営業利益（対前年同期）		
分析	増減	主な増減要因
数量影響	+5	ライフサイエンス、ヘルスケア共に販売数量が増加
価格影響	△0	為替影響
その他	△4	研究開発費や販売数量増加に伴う経費の増加

【対前年同期】 増収・増益

ライフサイエンス 微減収（△0.1%）

- キラルカラム関連は、欧州での医薬品製造用充填剤の販売があり微増、分析・合成サービスにおいては中国で昨年立ち上げたラボでの販売が増加となったものの、為替の影響などにより微減収。

ヘルスケア 増収（+23.6%）

- 国内外における化粧品市場や健康食品市場は堅調に推移。主にサプリメント向け販売が好調であり、中でもエクオールが大きく伸長したこともあり増収。

セグメント別 事業概況（対前年同期）

■スマート

単位：億円	2025/3 2Q実績	2026/3 2Q実績	対前年同期	
			増減	増減率
売上高	196	182	△14	△7.3%
営業利益	2	4	+2	+87.9%

営業利益（対前年同期）		
分析	増減	主な増減要因
数量影響	+0	
価格影響	+5	原料価格の低下
その他	△4	全社共通費配賦額の増加など

【対前年同期】 減収・増益

ファンクショナルプロダクツ 減収（△6.4%）

- カプロラクトン誘導体は、中国における価格競争や為替の影響などにより減収。
- 脂環式エポキシは、高付加価値用途への差別化戦略により欧米市場でのシェアが拡大しており、さらに電子基板用途等の電子材料市場の需要の回復などにより販売数量は増加したものの、為替の影響により減収。

アドバンステクノロジー 減収（△8.4%）

- 半導体市場は堅調に推移しており、電子材料向け溶剤は増収。フォトレジスト材料は拡販の成果があるものの、顧客の生産時期のズレ等により減収。機能フィルムは、電池向け離型フィルムの需要が徐々に回復しているが、車載ディスプレイフィルム用途向けが減少し減収。

セグメント別 事業概況（対前年同期）

■ セイフティ

単位：億円	2025/3 2Q実績	2026/3 2Q実績	対前年同期	
			増減	増減率
売 上 高	471	497	+27	+5.6%
営 業 利 益	13	27	+14	+102.8%

営業利益（対前年同期）		
分析	増減	主な増減要因
数量影響	+18	インフレータ販売数量の増加、北米生産拠点の生産性改善
価格影響	△15	関税影響、為替影響
その他	+10	北米生産拠点の生産性改善、コストダウン

【対前年同期】 増収・増益

モビリティ 増収（+7.2%）

- 前年同期では日系自動車認証不正問題の影響等があったが、当第2四半期累計期間においては、中国市場における政府の景気刺激策による中国自動車メーカーの生産回復や、インドにおいて新規ラインを増設し拡販したことなどにより、インフレータ販売数量は増加し増収。

インダストリー 減収（△11.0%）

- 2025年3月期後半から中国向けの新規ビジネスを受注し拡販するも、外販イニシエータ（点火器）の販売減少を受け、減収。

セグメント別 事業概況（対前年同期）

■ マテリアル

単位：億円	2025/3 2Q実績	2026/3 2Q実績	対前年同期	
			増減	増減率
売上高	885	772	△113	△12.8%
営業利益	143	50	△94	△65.3%

営業利益（対前年同期）		
分析	増減	主な増減要因
数量影響	+22	(+) COプラントトラブル影響の解消 (△) アセテート・トウの販売数量減少
価格影響	△43	酢酸市況低下、為替影響
その他	△73	移動平均差や富山フィルタートウ完全子会社化に伴う経費などの増加

【対前年同期】 減収・減益

アセチル 減収（△14.9%）

- アセテート・トウは、大手たばこメーカー向け販売が堅調なものの、ローカルメーカーでの在庫調整による販売数量の減少や、為替の影響により減収。

ケミカル 減収（△7.1%）

- 酢酸セルロースは、液晶パネル市場における中国の補助金政策や米国追加関税前の駆け込み需要があり、液晶ディスプレイ用途は前期並みで推移したものの、中国市場における繊維用途の需要が減少し、減収。
- 1, 3BGは国内及び海外の化粧品市場は堅調に推移し、海外への拡販活動や米中貿易摩擦の影響による当社製品の採用等もあり販売数量は増加し増収。

セグメント別 事業概況（対前年同期）

■ エンジニアリングプラスチック

単位：億円	2025/3 2Q実績	2026/3 2Q実績	対前年同期	
			増減	増減率
売上高	1,245	1,219	△26	△2.1
営業利益	152	115	△37	△24.5%

営業利益（対前年同期）		
分析	増減	主な増減要因
数量影響	△15	(△) 樹脂コンパウンド事業移管影響、POM販売数量の減少 (+) LCPなどの販売数量増加
価格影響	+26	原料価格の低下、為替影響
その他	△49	減価償却費の増加、定修影響、人件費やICT関連費用などの増加

【対前年同期】 減収・減益

ポリプラスチック 微増収（+0.5%）

中国における中国自動車メーカーは好調なものの、日系自動車メーカーは低調。
LCPの販売などは好調だったものの、為替の影響やPOMの販売数量の減少などにより微増収。

- ・ POMは、価格競争などにより諸工業向けが減少し、販売数量は減少。
- ・ PBTは、自動車向け等の好調により販売数量増加。
- ・ PPSは、自動車向けに加え、サーバー向けが好調なことにより販売数量は増加。
- ・ LCPは、サーバー向けが好調なことや、中国での買い替え補助金施策等によりスマートフォンやパソコンなどの電子デバイス向けが大幅に増加し、販売数量は増加。2025年2月に台湾にて稼働した増産プラントは2025年5月にフル稼働。

ダイセルミライズ 減収（△18.8%）

2024年7月に持分法適用会社ノバセルへ樹脂コンパウンド事業を移管した影響により減収。

セグメント別 事業概況（対上期予想）

単位：億円		上期 予想※	2026/3 2Q実績	対上期 予想※	上期対予想の状況
メディカル・ヘルスケア	売上高	75	76	+1	売上高上振れ・営業利益上振れ - ライフサイエンス事業では、欧州での医薬品製造用充填剤の販売が当初計画より増加したことなどにより上振れ。 - ヘルスケア事業では、健康食品素材でのエクオール販売が好調であり計画を上回る。
	営業利益	△2	2	+4	
スマート	売上高	200	182	△18	売上高下振れ・営業利益下振れ - 脂環式エポキシは高付加価値用途への拡販により計画より上振れたものの、カプロラクトン誘導体は計画よりも下振れ。 - 電子材料向け溶剤は、国内半導体市場は堅調なものの、液晶向け需要や海外での欧州自動車塗料向けの需要が減少し計画を下回った。機能フィルムは、計画していた新規開発品の開発遅延により下振れ。
	営業利益	7	4	△3	
セイフティ	売上高	500	497	△3	売上高下振れ・営業利益下振れ 日本市場での一部日系自動車メーカーの販売不振の影響や、中国市場での自動車販売が想定よりも伸びなかったことに加え、米国追加関税の影響も受けたことによりインフレータ販売は計画を下回った。
	営業利益	29	27	△2	
マテリアル	売上高	830	772	△58	売上高下振れ・営業利益下振れ - アセテート・トウは、大手たばこメーカーへの販売は計画通りなものの、ローカルメーカー向けが当初計画より低迷し下振れ。 - 営業利益もアセテート・トウの販売数量の減少に加え、COプラントトラブル影響もあり計画を下回った。
	営業利益	78	50	△28	
エンジニアリングプラスチック	売上高	1,270	1,219	△51	売上高下振れ・営業利益上振れ POMは、中国から米国への輸出の落ち込みなどにより中国市場での販売が減少。COCは、環境対応包装材向けなどの需要の立ち上がりが遅れ、販売が減少したことにより、売上は計画から下振れたが、営業利益は為替の影響などにより上振れた。
	営業利益	110	115	+5	

※2025年5月13日に発表した数値です。

連結貸借対照表

単位：億円		2025年 3月末	2025年 9月末	増減
流動資産		3,956	3,907	△49
	現預金及び預金	651	647	△5
	受取手形及び売掛金	1,139	1,028	△111
	棚卸資産	1,779	1,860	+81
	その他	387	372	△14
固定資産		4,182	4,582	+400
	有形固定資産	3,194	3,489	+295
	無形固定資産	106	109	+2
	投資その他資産	881	984	+103
資産合計		8,138	8,489	+351
負債		4,388	4,547	+159
	有利子負債	2,861	2,958	+97
	その他	1,527	1,589	+62
純資産		3,750	3,942	+192
負債純資産 合計		8,138	8,489	+351

- 資産合計の増加の内、為替の影響は+127億円
- 棚卸資産増加の要因は、主にアセテート・トウやポリプラスチックのPOMなどにおける販売時期ズレ・定期修繕向け積み増し等。下半期に向け生産計画見直し等による削減を進め、期末棚卸資産を前期回転日数以下の水準に圧縮。
- 有形固定資産増加の要因は、ポリプラスチックのPOM・LCP・COC製造能力増強投資など。
- 投資その他資産は、主に投資有価証券の時価上昇により増加。
- 有利子負債の増加は、主にポリプラスチックのドイツや中国での増産投資に関連する長期借入金の増加。

連結キャッシュ・フロー計算書

単位：億円		2025/3 2Q	2026/3 2Q
	営業キャッシュ・フロー	507	328
	投資キャッシュ・フロー	△294	△265
フリーキャッシュフロー		214	62
財務キャッシュ・フロー		△240	△78
その他		△13	13
現金及び現金同等物の増減額		△40	△3
現金及び現金同等物の中間期末残高		644	644

- 販売数量減少などにより、営業キャッシュフローは328億円に減少。またポリプラスチックスの増産プラント投資などにより、投資キャッシュフローは△265億円と引き続き高水準。
- その結果フリーキャッシュフローは62億円に減少。
- 財務キャッシュフローは、設備投資に関わる長期借入金調達により有利子負債が増加し△78億円となった。

【全体戦略】

主力製品POMの価格管理の徹底を行い販売数量増加と収益最大化を狙う。また好調なサーバー向けのLCPやPPSについてはポリプラスチック製の強みを武器に、全体の利益押し上げに貢献する。

① POMの中国市場における販売戦略

中国市場の状況：

- 中国経済は政府の積極的な景気刺激策などにより、2025年上期の**実質GDP成長率は前年同期比5.3%**。家電買い替え政策により国内消費が増加し内需は拡大。米国関税により輸出が減少していたが、2025年5月に米国の関税引き下げられ輸出環境が改善、製造業の投資も堅調。自動車産業においては中華系メーカーは好調なものの日系メーカーが減退。

ポリプラスチックの課題：

【諸工業】

- 中国から米国への輸出品の関税率上昇により諸工業関係の輸出量が減少と推定。さらにPOM新興サプライヤの生産開始に伴い、供給過多の状況が発生。その結果、中華系POMメーカーが原価を下回る水準まで販売価格を下げたことにより、中国における販売が苦戦。

【自動車】

- 日系メーカーが弱含み、販売数量が減少。

打ち手：

【諸工業】

- 価格競争への対応：** 諸工業向けにおいては、市場の反応を注視し品質差別化と顧客ごとの価格管理を強化し、販売数量の確保に努め、新興サプライヤーに対する競争力を向上。

【自動車】

- 顧客基盤の多様化：** 自動車用途においては、今後伸長する中華系顧客へのシェア増加を図り、中国市場でのプレゼンスを強化（中国における自動車用途で販売数量前期比約10%増加を見込む）。

見通し：

- 2026年3月期においては、上期の諸工業向け販売減少が大きいですが、販売戦略展開により販売数量は**前期から約2%減少**にとどまる見込み。
- 2027年3月期においては、同3Qより第2期6万トン増産プラント稼働を計画。これにより地産地消体制が構築され、アンチダンピング課税の影響が解消。**中国国内の年成長率3~4%の需要を取り込む。**

② LCP 成長する高速通信サーバー向けの販売

【サーバー市場の状況】

- サーバー全体の生産台数1,300万台、内AIサーバーは230万台（2025年度予想）
- サーバー全体の2024年度から2027年度市場成長年率7%（内、AIサーバーは市場成長年率22%）
- サーバー1台当たりのクーリングファン搭載個数は平均13個
- サーバー1台当たりのLCP使用量は、クーリングファン13個×20g/個=260 g /台

【ポリプラスチックのサーバー向けLCP】

- ポリプラスチックのLCP販売予想は、2025年度1,500T/Y、世界トップシェア43%を保持。
- 台湾での新プラントの操業開始により、顧客への安定的な供給体制を強化し、信頼性が向上。



【LCP全体】世界トップシェア

- 2026年3月期 2 Qにおいては、既存のPC・スマホ向けに加えサーバー向けが好調であり、通期でこの傾向が継続する見込み。
- 2025年2月稼働の台湾の新プラントはフル稼働。2026年3月期 2 Qにて販売数量は前年同期比19%増加し、通期で前期比21%増加を見込む。
- 2027年3月期に向けても市場成長年率4%で、販売数量5%（対前期）増加を見込み、サーバー市場の好調継続を見込む。

※ PPSにおいても既存の自動車用途に加え、データ量の増大により光通信化が進み、MTフェルール用途が増加
⇒販売数量も通期で前期比2%増加を見込む。

ダイセルとポリプラスチックとの一体化や製品ラインナップ拡充により、成長牽引事業であるエンジニアリングプラスチック事業の強化を図る。

新ダイセルに向けてポリプラスチックとの一体化を検討開始

2026年4月1日付で、ポリプラスチック株式会社の全事業（ポリプラスチックの子会社および関連会社の株式保有および管理事業を除く）をダイセルへ統合し、企業価値の最大化を狙う。

【統合の狙い】

- ① ダイセルグループの注力事業であるエンジニアリングプラスチック事業のさらなる成長のための施策をスピードを上げて実行していく。
- ② 両社の保有する人財を含めたリソースのフル活用のために迅速な意思決定を行う。
- ③ ダイセルグループのコーポレート機能の少数精鋭化を目指す。

エンジニアリングプラスチック事業強化

2026年1月1日より三井化学株式会社はポリプラスチックにポリアミド樹脂（アーレン®）およびポリイミド樹脂（オーラム®）の営業業務を委託し、ポリプラスチックは顧客対応、新規開拓、技術サポート等の営業関連業務を独占的に担う。両社はエンジニアリングプラスチック事業の強化を図るとともに、さらなる協業の深化についても今後検討を進める。

【提携の狙い】

- ・ 三井化学は、自動車および電気・電子分野で拡大する高機能エンプラの需要に対応するため、ポリプラスチックが保有する、お客様ネットワークおよびソリューション提供力を活用することで、さらなる事業成長を図る。
- ・ ポリプラスチックは、両製品の営業業務を通じたプロダクトポートフォリオの充実により、さらに多くのお客様に対するソリューション提供力を強化。

セイフティ事業の米国拠点の生産性改善と関税影響

米国拠点の生産性改善は順調に進捗。米国関税影響を受けるものの、価格転嫁により利益確保に努める。

● 米国拠点の生産性改善

2026年3月期 2 Q	● 前期4Q可動率80%を継続。米国関税影響を除き、黒字化。 ● インフレータ数量減の影響があるものの、生産性改善、コストダウン活動の推進により挽回 ● 直接要員の多能工化、経理部門の集約による工数削減実施
2026年3月期 通期予想	● 可動率80%以上を維持し安定化を図るとともに、今後さらに可動率を向上させる。 ● 米国の自動車需要は計画より△5%、当社のインフレータ販売数量:△1.2% ● 設備自動化、ロジスティック業務の外注化などにより通年での黒字化を計画。 セイフティ事業全体で営業利益率は前期比: 2ポイント以上の改善を見込む。

● 米国関税影響：通期予想 約11億円のコストアップ

内訳	通期予想 関税総額約22億円、このうち約11億円の価格転嫁を半期遅れで実施予定
関税対象製品	原材料（金属部品）：5.5億円影響 他国拠点で製造したインフレータ製品：16.5億円影響

マテリアル事業全体

アセテート・トウのローカル向け販売数量減少やCOプラントのトラブル等により、当初計画から下振れる見込み（当初計画から約30億円減益）。コストダウンを強化し収益性を維持するとともに、在庫圧縮に取り組み、ROIC向上に寄与する。

アセテート・トウ（修正予想：当初計画比下振れ、前期比横ばい）

市場環境

- ・ タバコやフィルターの需要動向に変化はなく、市場成長率は△ 1 %弱で推移する見通し。
- ・ 中国競合の増産や参入によりローカル市場の競争激化。

ダイセルの状況

- ・ **大手たばこメーカーとの契約は計画通り**に進捗し、販売価格も維持の方向。
- ・ 一方で、**当初計画でのローカルメーカーへの拡販戦略**は、現地の在庫調整や価格競争等により**当初計画下振れ**。
- ・ ローカルメーカーが抱える過剰流通在庫は2026年1月ごろから徐々に解消すると想定、来期下期より販売は上向いていく見込み。
- ・ 販売数量の減少に応じたフレキシブルな在庫管理を行い在庫圧縮を推進し、CCCの短縮やROICの向上に努める。

COプラント*の状況

1 Q定修にて恒久的対策を実施、
定修後の2 Qに一過性トラブルが発生。

当初予想に対する影響額

(単位：億円)	2026年3月期予想
トラブル影響	△ 32
酢酸製品構成影響**	12
計	△ 20

*COプラントは、酢酸の主原料である一酸化炭素を製造するプラントで、石炭を原料とする。以前は原料にアスファルトを使用していたが老朽化更新に伴い、原料を石炭に変更し2024年2月に稼働した。当初ロシア炭の使用を前提とした仕様だったが、世界情勢によりカナダ炭に切り替えを実施。2025年3月期は、炭種の違いからプラントに不具合が発生していた。

**トラブル中に生産できなかった販売予定の酢酸を外部調達（自社品よりも安値）。

2026年3月期 業績予想



＜業績予想の修正＞

- 上期において、為替については想定よりも円安で推移したものの、製品の販売動向や一過性のCOプラントトラブル等により通期業績予想を見直す。
- アセテート・トウは顧客の在庫調整による販売数量減少やポリプラスチックにおけるPOMの販売数量減少などにより当初予想から減収を見込む。営業利益は、セイフティ事業の米国拠点の生産性改善は着実に進捗しているものの、COプラントトラブル等により当初予想から減益を見込む。
- 最終利益は、設備投資に関する補助金収入があり500億円を見込む。

単位：億円

	2025/3 実績	2026/3 当初予想	2026/3 修正予想	対前年度		対当初予想	
				増減	増減率	増減	増減率
売上高	5,865	6,000	5,830	△35	△0.6%	△170	△2.8%
営業利益	610	540	465	△145	△23.8%	△75	△13.9%
経常利益	623	560	475	△148	△23.8%	△85	△15.2%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	495	540	500	+5	+1.1%	△40	△7.4%
為替レート USD/JPY	153	140	146				

	2025/3 実績	2026/3 当初予想	2026/3 修正予想
EBITDA	1,024	970	895
ROE	13.8%	14.8%	13.8%
ROIC	6.1%	5.4%	4.7%
ROA	6.0%	6.6%	6.2%
EPS（円）	181.44	203.67	188.33

EBITDA増減分析

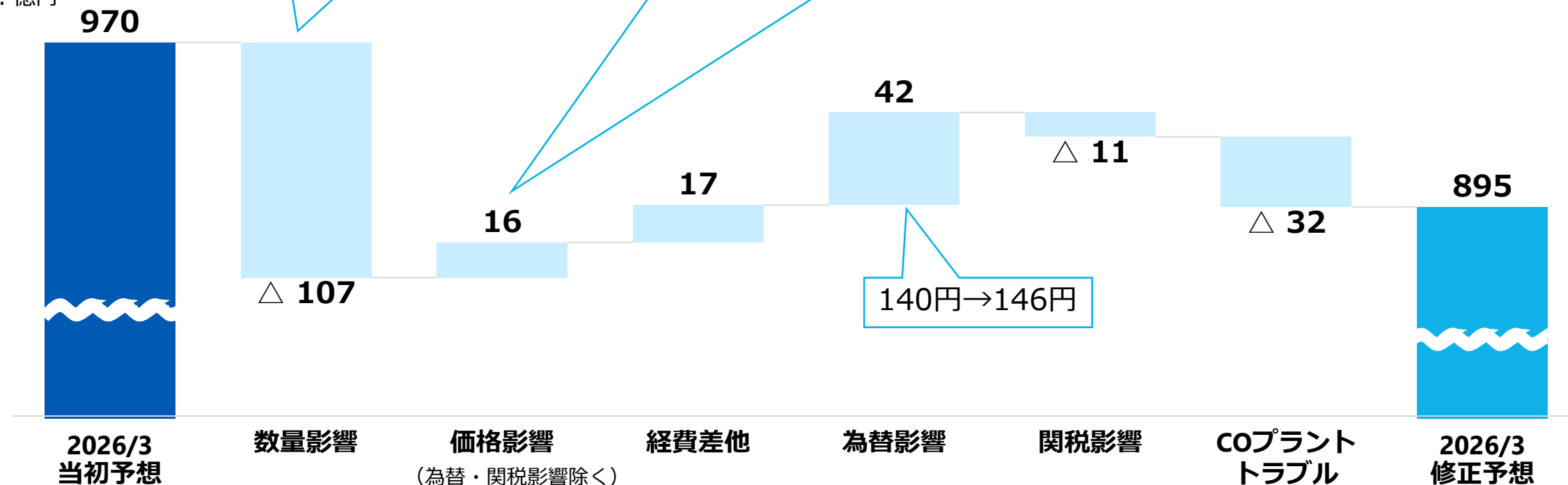
数量影響

エンジニアリングプラスチック△68
マテリアル△24
セイフティ△12

価格影響

販売単価：△35
マテリアル△23、エンジニアリングプラスチック△12
購入単価：+51
マテリアル+38、セイフティ+9

単位：億円



セグメント別 売上高・営業利益 予想

単位：億円

	売上高						
	2025/3 実績	2026/3 当初予想	2026/3 修正予想	対前年度		対当初予想	
				増減	増減率	増減	増減率
メディカル・ヘルスケア	144	155	160	+16	+10.8%	+5	+3.2%
スマート	373	405	390	+17	+4.5%	△15	△3.7%
セイフティ	976	1,010	1,035	+59	+6.0%	+25	+2.5%
マテリアル	1,834	1,815	1,720	△114	△6.2%	△95	△5.2%
エンジニアリングプラスチック	2,480	2,560	2,470	△10	△0.4%	△90	△3.5%
その他事業	58	55	55	△3	△4.6%	-	-
合 計	5,865	6,000	5,830	△35	△0.6%	△170	△2.8%

単位：億円

	営業利益						
	2025/3 実績	2026/3 当初予想	2026/3 修正予想	対前年度		対当初予想	
				増減	増減率	増減	増減率
メディカル・ヘルスケア	3	3	4	+1	+53.3%	+1	+33.3%
スマート	△8	14	13	+21	-	△1	△7.1%
セイフティ	39	64	65	+26	+65.4%	+1	+1.6%
マテリアル	296	230	200	△96	△32.5%	△30	△13.0%
エンジニアリングプラスチック	270	221	175	△95	△35.2%	△46	△20.8%
その他事業	10	8	8	△2	△17.1%	-	-
合 計	610	540	465	△145	△23.8%	△75	△13.9%

EBITDA

2025/3 実績	2026/3 修正予想
13	14
20	38
111	146
496	381
368	303
16	13
1,024	895

■ メディカル・ヘルスケア

単位：億円	2026/3 当初予想	2026/3 修正予想	対当初予想	
			増減	増減率
売上高	155	160	+5	+3.2%
営業利益	3	4	+1	+33.3%

【対当初予想】 増収・増益

ライフサイエンス 増収（+1.9%）

- インドでの合成サービス等が計画よりも伸びないものの、キラルカラム関連は欧州での医薬品製造用充填剤の販売が計画より増加し、当初計画を上回る見込み。
- ダイセルインジェクターP1 SCの承認取得と販売について：
株式会社ダイセルメディカルは日本においてガス式針なし医薬品・ワクチン用注入器の医療機器製造販売承認を2025年10月29日付けで取得し、2026年3月期 3 Qより販売開始予定。



ヘルスケア 増収（+6.1%）

- 国内外における化粧品市場や健康食品市場は堅調に推移。主にサプリメント向け販売が当初予想よりも好調であり、中でもエクオールのさらなる伸長により、当初計画を上回る見込む。

セグメント別 事業計画（修正予想 対当初予想）

■ スマート

単位：億円	2026/3 当初予想	2026/3 修正予想	対当初予想	
			増減	増減率
売上高	405	390	△15	△3.7%
営業利益	14	13	△1	△7.1%

【対当初予想】 減収・減益

ファンクショナルプロダクツ 増収（+1.0%）

- カプロラクトン誘導体は、中国における価格競争が加速することにより当初計画を下回る見込み。中国での価格競争を打開すべく欧米向けのシェア拡大や新規案件の拡大に取り組む。
- 脂環式エポキシは、電子基板用途等の電子材料市場の需要は想定通り増加。欧米市場でのシェア拡大への取り組みも好調に進捗し増収見込み。

アドバンステクノロジー 減収（△8.4%）

- 電子材料向け溶剤は、半導体市場がAI用途を中心に伸長しているものの、海外での欧州自動車塗料向け需要の低調により当初計画並み。
- フォトレジスト材料は想定通り国内半導体レジストメーカー向けの需要が伸長しており、当初計画並みを見込む（上期にあった顧客の生産時期ズレは下期で解消の計画）。
- 機能フィルムは、新規開発品の開発遅延により当初計画を下回るが、販売戦略の再構築や新規開発品の立ち上げ等の挽回策に取り組む。

■ セイフティ

単位：億円	2026/3 当初予想	2026/3 修正予想	対当初予想	
			増減	増減率
売上高	1,010	1,035	+25	+2.5%
営業利益	64	65	+1	+1.6%

【対当初予想】 増収・増益

モビリティ 増収（+4.0%）

- 米国関税の影響や、主に日本の自動車生産台数が計画よりも伸長せず、自動車エアバッグ用インフレーターの販売数量は微減を見込むが、為替の影響により増収見込み。日系や中華系以外のメーカーへのさらなる拡販に取り組みシェア拡大を図る。

インダストリー 減収（△13.2%）

- 電流遮断器は、新規用途での展開を行っているものの、OEMのEV戦略の見直しや一部車両の量産化遅れなどにより当初計画を下回る見込み。

■ マテリアル

単位：億円	2026/3 当初予想	2026/3 修正予想	対当初予想	
			増減	増減率
売上高	1,815	1,720	△95	△5.2%
営業利益	230	200	△30	△13.0%

【対当初予想】 減収・減益

アセチル 減収（△5.6%）

- アセテート・トウは、大手たばこメーカー向け販売は計画通りであるものの、ローカルメーカー向けは在庫調整により拡販が苦戦しているため当初計画を下回る見込み。
- 営業利益は、COプラントトラブルの影響もあり当初計画よりも減益を見込む。

ケミカル 減収（△4.1%）

- 酢酸セルロースにおいて、液晶ディスプレイ用途では、米国追加関税前の駆け込み需要や海外への拡販等で当初計画並みであるものの、繊維用途では中国市場における需要が引き続き低調に推移し、全体で当初計画より下回る見込み。
- 1, 3BGは、主に中国・欧州向けの拡販などにより当初予想を上回る見込み。

■ エンジニアリングプラスチック

単位：億円	2026/3 当初予想	2026/3 修正予想	対当初予想	
			増減	増減率
売上高	2,560	2,470	△90	△3.5%
営業利益	221	175	△46	△20.8%

【対当初予想】 減収・減益

ポリプラスチックス 減収（△3.6%）

自動車生産台数は当初計画並みに推移。LCPの販売などは好調が続くが、POMやCOCの販売数量の減少などにより減収、減益。

- POMの販売数量は、中国における需要低迷や汎用POMでの価格競争などにより諸工業向けが減少し、当初計画から下振れるが、価格管理や体制を強化し、市場シェア防衛と収益確保に取り組む。
- COCの販売数量は、環境対応包装材向けへの拡販計画の遅れなどにより当初計画から下振れる。

セグメント別 事業計画（対前年度）

単位：億円		2025/3 通期実績	2026/3 通期予想※	増減	対前期比較
メディカル・ヘルスケア	売上高	144	160	+16	増収・増益 - ライフサイエンス事業は、ほぼ前期並み。 - ヘルスケア事業では化粧品原料・健康食品素材が好調であり、特に健康食品素材でのエクオール販売が好調。
	営業利益	3	4	+1	
スマート	売上高	373	390	+17	増収・増益 - カプロラクトン誘導体販売は前期並み、脂環式エポキシは拡販により増収を計画。 - 電子材料向け溶剤やフォトレジスト材料は、国内半導体市場が堅調に推移し拡販により増収を計画。 - 機能フィルムは、新規開発品での挽回により増収を見込む。
	営業利益	△8	13	+21	
セイフティ	売上高	976	1,035	+59	増収・増益 グローバルな自動車生産台数はほぼ横ばいを見込むものの、当社の自動車エアバッグ用インフレータの販売数量は中国やインドを中心に増加し、増収を見込む。
	営業利益	39	65	+26	
マテリアル	売上高	1,834	1,720	△114	減収・減益 - 大手たばこメーカーへの販売は前期並みであるが、ローカルメーカー向けへの販売が在庫調整などにより拡販に苦戦していることや為替の影響などから減収を見込む。 - 営業利益は、COプラントトラブルの影響改善があるものの、繰越在庫影響や為替の影響により減益を見込む。
	営業利益	296	200	△96	
エンジニアリングプラスチック	売上高	2,480	2,470	△10	減収・減益 LCPはサーバー向けが好調であるものの、POMにおいては、中国から米国への輸出の落ち込みなどにより中国市場での販売が減少し、さらに為替の影響もあり減収を見込む。営業利益も為替の影響や、定修費用・減価償却費の増加、人件費やICT関連費用の増加などにより減益を見込む。
	営業利益	270	175	△95	

※2025年11月6日に発表した数値です。

「総還元性向40%以上」「DOE4%以上」との方針に則り安定的な株主還元を維持

2025年3月期

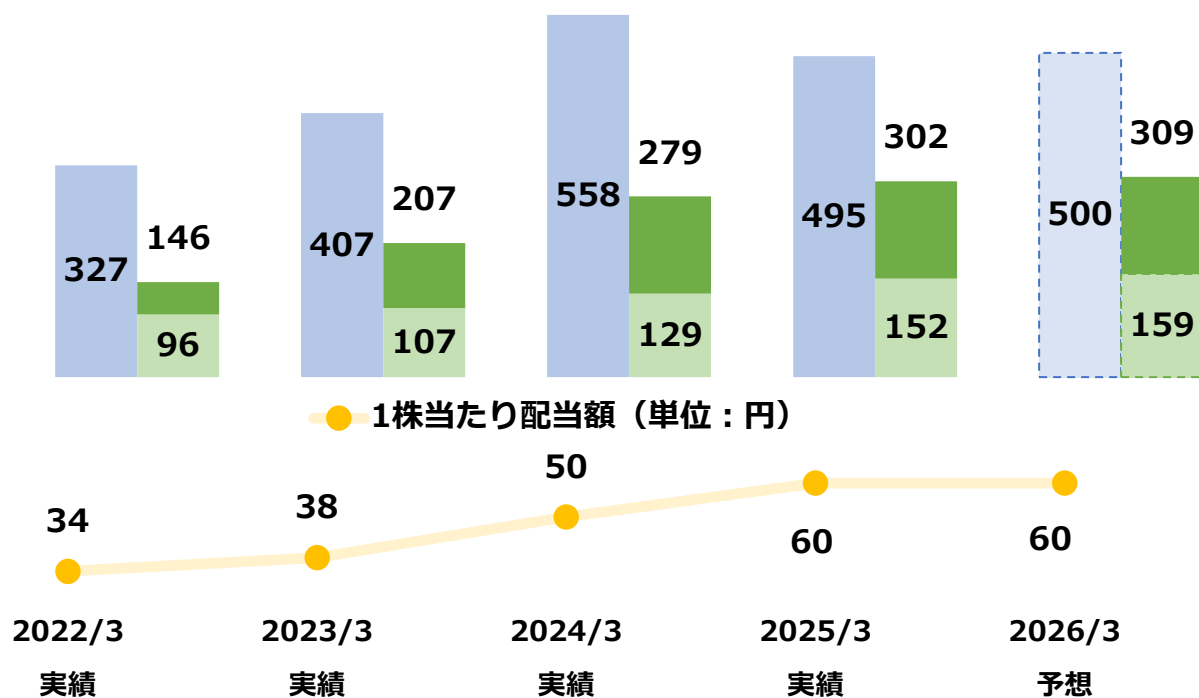
- ・ 期末配当 30円／株
(年間配当60円／株 前期から10円増配)
- ・ 約150億円(1,098万株)の自己株式を取得
(取得期間：2024年11月～2025年2月)

2026年3月期

- ・ 中間配当 30円／株・期末配当計画 30円／株
(年間配当60円／株 前期と同額、前回予想から変更なし)
- ・ **上限150億円(1,100万株)の自己株式取得決定**
(取得期間：2025年11月～2026年3月)

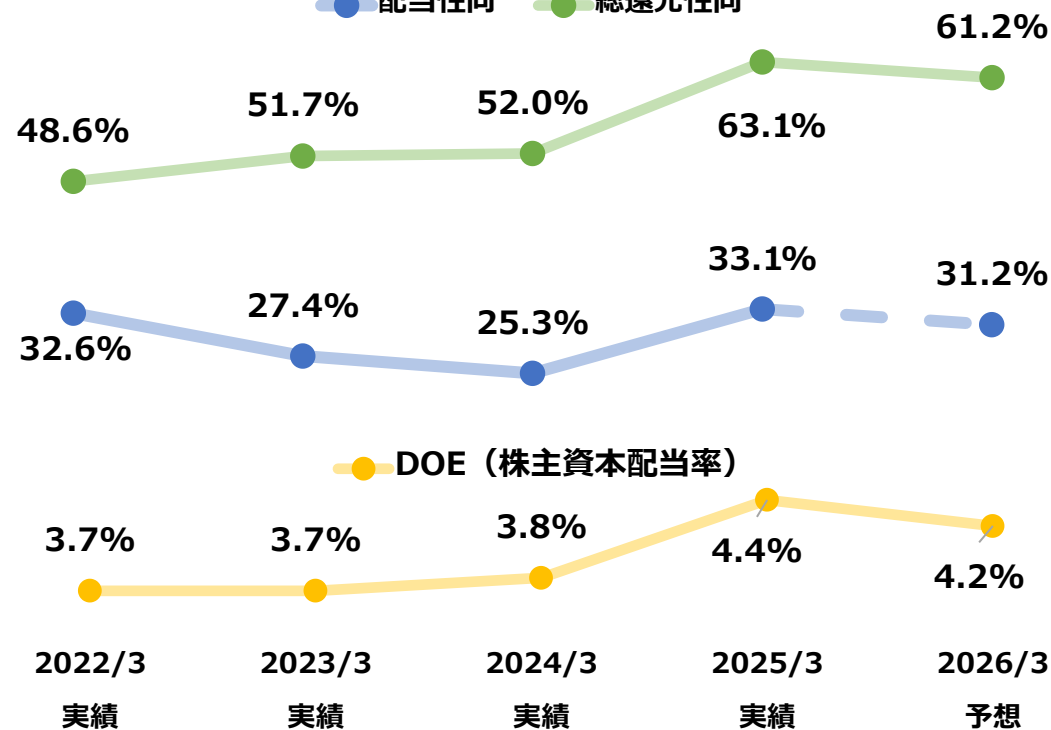
親会社株主に帰属する当期純利益および株主還元額推移 (単位：億円)

■ 親会社株主に帰属する当期純利益 ■ 総還元のうち配当還元額 ■ 総還元額



株主還元指標推移

● 配当性向 ● 総還元性向



Appendix

キャッシュアロケーションおよび政策保有株式の状況

- ・ キャッシュ創出力は中期戦略と同程度を維持しており、キャッシュアロケーションを機動的に見直し**成長投資への配分および株主還元を強化**
- ・ 政策保有株式は縮減を進め2025/3期末時点で**みなし保有含みの純資産割合20%以下**となった

2023年5月中期戦略見直し時点

キャッシュイン (24/3期以降3年累計)

単位：億円

営業CF	2,876
キャッシュ	2023年3月末 935 政策保有株式売却 389
負債調達	0～

キャッシュアウト (24/3期以降3年累計)

単位：億円

成長投資	1,900～
株主還元	～850
負債返済	～850
キャッシュ	600

配分可能総額

4,200～

現時点での見直し

キャッシュイン (24/3期以降3年累計)

単位：億円

営業CF	2,700
キャッシュ	2023年3月末 935 政策保有株式売却 505
負債調達	0～

キャッシュアウト (24/3期以降3年累計)

単位：億円

成長投資	2,200～
株主還元	～940
負債返済	～430
キャッシュ	570

配分可能総額

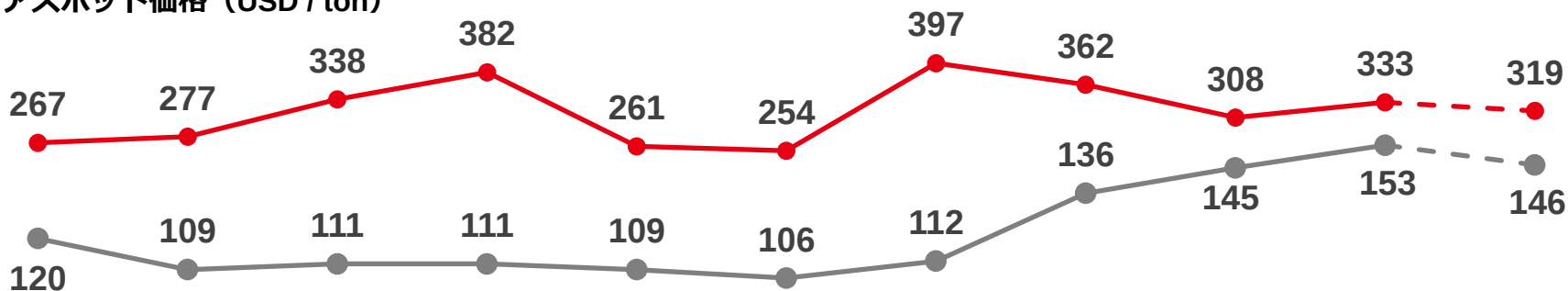
4,140～

政策保有株式縮減状況

	2025/3 実績	2026/3 予想
連結純資産割合（みなし保有含まず）	12.2%	7.8%
連結純資産割合（みなし保有含む）	17.0%	13.4%

売上高・営業利益・EPSの推移

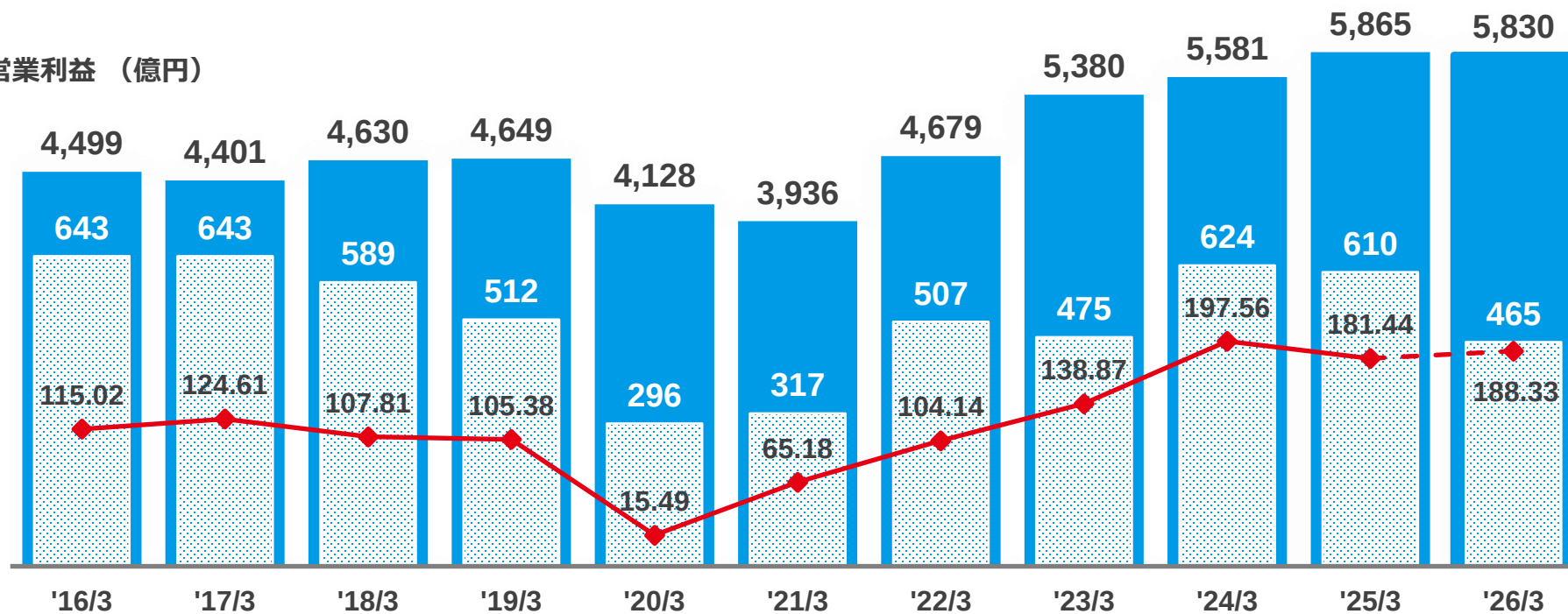
● メタノールアジアスポット価格 (USD / ton)



● 為替レート (USD / JPY)

■ 売上高・□ 営業利益 (億円)

◆ EPS (円)



※2025年11月6日に発表した数値です。

予想※

セグメント別 売上高・営業利益（四半期推移）

単位：億円	売上高					
	2025/3				2026/3	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
メディカル・ヘルスケア	35	37	37	36	38	38
スマート	103	93	89	88	95	87
セイフティ	233	238	257	248	245	253
マテリアル	445	440	407	542	403	369
エンジニアリングプラスチック	627	618	623	612	599	620
その他事業	13	16	16	14	13	12
合 計	1,456	1,441	1,429	1,540	1,393	1,378

単位：億円	営業利益					
	2025/3				2026/3	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
メディカル・ヘルスケア	1	1	2	△1	2	0
スマート	5	△3	△8	△2	2	2
セイフティ	△0	14	17	9	16	11
マテリアル	91	53	48	105	44	6
エンジニアリングプラスチック	77	75	54	64	65	49
その他事業	1	2	4	3	1	3
合 計	175	141	116	178	130	71

2026年3月期 業績予想

		2026/3 当初予想			2026/3 修正予想※			増減
		上期予想	下期予想	年間	上期実績	下期予想	年間	
単位：億円								
	メディカル・ヘルスケア	75	80	155	76	84	160	+5
	スマート	200	205	405	182	208	390	△15
	セイフティ	500	510	1,010	497	538	1,035	+25
	マテリアル	830	985	1,815	772	948	1,720	△95
	エンジニアリングプラスチック	1,270	1,290	2,560	1,219	1,251	2,470	△90
	その他事業	25	30	55	25	30	55	-
売上高		2,900	3,100	6,000	2,771	3,059	5,830	△170
	メディカル・ヘルスケア	△2	5	3	2	2	4	+1
	スマート	7	7	14	4	9	13	△1
	セイフティ	29	35	64	27	38	65	+1
	マテリアル	78	152	230	50	150	200	△30
	エンジニアリングプラスチック	110	111	221	115	60	175	△46
	その他事業	3	5	8	4	4	8	-
営業利益		225	315	540	201	264	465	△75
経常利益		235	325	560	204	271	475	△85
親会社株主に帰属する当期純利益		250	290	540	188	312	500	△40
(参考) 為替レート USD/JPY		140	140	140	146	145	146	

※2025年11月6日に発表した数値です。

設備投資額

	2021/3 実績	2022/3 実績	2023/3 実績 (※1)	2023/3 実績 (※1・2)	2024/3 実績 (※1)	2024/3 実績 (※1・3)	2025/3 実績 (※1)	2026/3 上期実績 (※1)	2026/3 予想 (※1)
単位：億円									
メディカル・ヘルスケア	87	10	27	22	19	19	9	8	15
スマート	20	29	42	42	26	30	23	8	40
セイフティ	88	77	90	90	94	94	110	58	120
マテリアル	116	188	86	91	174	169	115	150	240
エンジニアリング プラスチック	71	74	306	306	457	457	433	208	290
その他事業・全社	14	30	12	12	4	4	3	3	5
合 計	396	408	563	563	775	775	695	434	710

※1 2023年3月期より全社費用配賦方法を見直し、「その他事業・全社」には「その他事業」のみの数値が記載されています。

※2 比較のため、2023年4月1日付の化粧品原料1,3-BGおよび新規投与デバイス研究開発機能のセグメント変更を反映した数値です。

※3 比較のため、2024年4月1日付のTAC、脂環式エポキシ、カプロラクトン誘導体のセグメント変更を反映した数値です。

	2021/3 実績	2022/3 実績	2023/3 実績 (※1)	2023/3 実績 (※1・2)	2024/3 実績 (※1)	2024/3 実績 (※1・3)	2025/3 実績 (※1)	2026/3 上期実績 (※1)	2026/3 予想 (※1)
単位：億円									
メディカル・ヘルスケア	14	14	28	15	11	11	11	5	10
スマート	16	20	27	27	29	31	28	12	25
セイフティ	47	50	65	65	71	71	71	36	80
マテリアル	90	90	97	110	131	129	199	86	180
エンジニアリング プラスチック	69	70	86	86	82	82	95	60	125
その他事業・全社	22	25	6	6	6	6	6	2	5
合 計	258	269	308	308	330	330	410	201	425

※1 2023年3月期より全社費用配賦方法を見直し、「その他事業・全社」には「その他事業」のみの数値が記載されています。

※2 比較のため、2023年4月1日付の化粧品原料1,3-BGおよび新規投与デバイス研究開発機能のセグメント変更を反映した数値です。

※3 比較のため、2024年4月1日付のTAC、脂環式エポキシ、カプロラクトン誘導体のセグメント変更を反映した数値です。

単位：億円

	2021/3 実績	2022/3 実績	2023/3 実績 (※1)	2023/3 実績 (※1・2)	2024/3 実績 (※1)	2024/3 実績 (※1・3)	2025/3 実績 (※1)	2026/3 上期実績 (※1)	2026/3 予想 (※1)
メディカル・ヘルスケア	21	19	22	28	24	24	27	14	30
スマート	27	36	42	42	40	48	50	21	42
セイフティ	51	56	63	57	60	60	72	39	80
マテリアル	16	15	28	28	38	31	35	19	35
エンジニアリング プラスチック	35	37	61	61	68	68	73	38	80
その他事業・全社	46	45	3	3	3	3	3	1	3
合 計	195	207	219	219	234	234	259	131	270

※1 2023年3月期より全社費用配賦方法を見直し、「その他事業・全社」には「その他事業」のみの数値が記載されています。

※2 比較のため、2023年4月1日付の化粧品原料1,3-BGおよび新規投与デバイス研究開発機能のセグメント変更を反映した数値です。

※3 比較のため、2024年4月1日付のTAC、脂環式エポキシ、カプロラクトン誘導体のセグメント変更を反映した数値です。

為替レート・主要原燃料価格動向

		2025/3 実績		2026/3 当初計画	2026/3 実績+下期計画	
		上期	下期	通期	上期実績	下期計画
為替レート (USD/JPY)		153	152	140	146	145
原料	メタノール アジアスポット価格 (USD/ton)	332	334	330	307	330
	原油 ドバイ (USD/bbl)	82	75	75	69	70
	国産ナフサ (円/kl)	77,950	74,000	67,000	65,150※	63,000

※2025年10月時点の予想

セグメント	サブセグメント	主な製品
メディカル ・ヘルスケア	ライフサイエンス	クロマトグラフィー用カラム・充填剤（キラル・アキラル）、キラル試薬、受託分取・精製サービス、分析サービス、合成サービス、遺伝子解析研究試薬、新規投与デバイス
	ヘルスケア	化粧品原料（ポリグリセリン誘導体、酢酸セルロース真球微粒子（BELLOCEA®）など）、機能性食品素材（エクオール、こんにゃくセラミド、ウロリチン、ラクトビオン酸など）
スマート	ファンクショナルプロダクツ	脂環式エポキシ、カプロラクトン誘導体、オプティカルレンズ
	アドバンステクノロジー	フォトレジスト材料、電子材料向け溶剤、機能フィルム
セイフティ	モビリティ	自動車エアバッグ用インフレーター
	インダストリー	電流遮断器、シートベルトプリテンショナー用ガス発生器（PGG）
マテリアル	アセチル	酢酸、無水酢酸、アセテート・トウ
	ケミカル	液晶保護フィルム用酢酸セルロース（TAC）、酢酸セルロース、1,3-BG、酢酸エチル、ケテン誘導体、エチルアミン
エンジニアリング プラスチック	ポリプラスチック社	ポリアセタール（POM）、ポリブチレン・テレフタレート（PBT）、ポリフェニレン・サルファイド（PPS）、液晶ポリマー（LCP）、環状オレフィン・コポリマー（COC）
	ダイセルミライズ社	水溶性高分子（CMC）、包装用バリアフィルム、AS樹脂

ダイセルグループでは循環型社会の実現に向け、お客様やパートナーと共に、持続可能な社会 づくりに取り組んでいます。

ダイセルは、世界最大級の年金基金である年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）が採用している、国内株式を対象とする6つのESG指数すべての構成銘柄に選定（2025年10月末時点）、さらに2025年のMSCI ESG Ratings において、「AA」評価を獲得。

- ◆ MSCI日本株ESGセレクト・リーダーズ指数
- ◆ MSCI日本株女性活躍指数 (WIN)
- ◆ S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数
- ◆ FTSE Blossom Japan Index
- ◆ FTSE Blossom Japan Sector Relative Index
- ◆ Morningstar 日本株式ジェンダー・ダイバーシティ・ティルト指数（除くREIT）

2025 CONSTITUENT MSCI日本株
ESGセレクト・リーダーズ指数



2025 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)



EcoVadis（エコバディス）社（本社：フランス）の2025年サステナビリティ調査において、「ゴールド」評価を獲得。



「健康経営優良法人2025（大規模法人部門「（ホワイト500）」）」に認定。
（ダイセル：6年連続）



この他にも、2025年8月にJPX日経インデックス人的資本100に選定、FTSE4Good Index SeriesやSOMPOサステナビリティ・インデックスの継続選定、2024年5月から新たに iSTOXX® MUTB Japan プラチナキャリア 150 インデックスにも採用されております。

※各インデックス情報の詳細等は、ダイセルのWEBサイト[参画するイニシアティブ・外部からの評価 | サステナビリティ | 株式会社ダイセル \(daicel.com\)](https://daicel.com) をご参照ください。

- 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ご使用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。
 - ・ 本資料の著作権は株式会社ダイセルに帰属します。
 - ・ いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。